

- 「会下山地区まちづくり協定」が締結されました！(P.1)
- 総合学習「わたしたちのまち」報告(P.2)
- 空間像をどのように捉えるか(P.3)
- まちづくりセンターからのお知らせ(P.4)

あーぱんとくの感想をお寄せ下さい！

発行：こうべまちづくりセンター

<http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp/matisen/>

神戸市内で13番目

## 「会下山地区まちづくり協定」 が締結されました！

11月6日、「会下山地区まちづくり協議会」と神戸市長との間で、「会下山地区まちづくり協定」が締結されました。この協定は、神戸市内で13番目、兵庫区では初めてのまちづくり協定となります。

会下山地区は兵庫区の中央部に位置し、市民の憩いの場である会下山公園を擁する緑豊かな住宅地域です。

より健全な住環境の形成を図るために、住民の方々の間でまちづくりの機運が高まり、平成13年にまちづくり協議会が設立され、勉強会やまちづくりニュースの発行、現地踏査、アンケート調査などの活動を行ってきました。平成16年にまちづくり構想を策定し、このたびまちづくり協定を締結しました。

まちづくり協定とは、住民自らが地区の特性を大切にしたいきめ細かなまちづくりを進めるために「神戸市地区計画及びまちづくり協定等に関する条例(まちづくり条例)」に基づき神戸市長と締結するもので、建物を建てる際のルールなどを定めるものです。

り③コミュニティー活性活動④地区の生活道路の改善検討の4方針を決めています。これらの実現のために、建築物の高さ制限、不適當業種の制限、深夜営業の制限、共同住宅のファミリー形式住戸の推奨、荷捌き場等の設置のルールを定めています。



「会下山地区まちづくり協定」では、自然が豊かな会下山公園に接している地区特性を活かした『陽のあたる 緑ゆたかな 丘のまち』を目標に、①環境づくり、景観づくりの重視 ②花とみどりあふれるまちづく

協定締結を受けて、会下山地区まちづくり協議会の久保田会長は、「協定締結に6年の歳月を要した。本日は実に感無量であり、協力して下さったみなさま方に感謝するとともに、“会下山地区くらしの住民宣言”の通り、住民自らがまちづくり活動を自立的持続的に推進して、従来の良い住環境を守り、改善すべきことは改め、育てていきたい」と語っておられました。

# 第4弾:長田南小学校3年生の「わたしたちのまち」

## ～ 総合学習報告 ～

心に残った事：私たちのまちの人たちの心が不屈だから、そして神戸全体がそうだから、神戸は何回も復活するんだなあ、と思いました。



# 交通の要衝&よみがえる不屈のまち

今回の報告は第4弾：長田南小学校です。10月15日。参加生徒数39人。所要時間2時間20分。うち1時間を講義にあてました。テーマは、①「交通の要衝・長田」 ②「よみがえる不屈のまち・長田」です。

### ①交通の要衝

神戸の西の副都心のある長田区は、鉄道5路線/高速道路2路線とランプ/2本の国道/運河/港、などの様々な交通施設がネットワークしています。中でも地下鉄西神・山手線と延伸工事中の高速道路はいずれも長田南小学校のすぐ横の地下を通っています。

しかし、こんな交通の要衝である長田の町も、戦前にはJRの新長田駅はありませんでした(昭和29年になっての設置です)。その頃は神戸市内では路面電車がもっぱら市民の足を担っていました。神戸高速鉄道開通(昭和33年)以前には、山陽電車が、西代から兵庫駅までの間は一般の道路上を、通行人やバスなどの交通に混じって走っていましたが、その写真をトピックスとして紹介。話は、長田交差点の中央部にあった市電と山陽電車の軌道の「平面交差」のこととなりました。この十文字交差点は、デッドセクション(無電圧区間)となっていて、電車は無電圧状態の中に突入し、そのまま慣性で走行し、通過していたわけです。交通渋滞などで、電車がやむなく交差点で停止し立ち往生したときは、乗客が降りて後ろから車体を押して渡ったとか。

授業ではこんな説明となりましたが、「こうべまちづくりセンター」の11月の企画展「鈴木城絵画立体作品展“昭和の神戸市電と仲間たち”」にもその絵がありました。この企画展ともタイアップとなった今回の総合学習でしたが、もちろん「みどりの市電」は、子供達にも圧倒的人気で支持されました。

2度の「くかくせいり」  
・60年前のせんさい  
・12年前のしんさい  
↓



### ②よみがえる不屈のまち

「大切なことは諦めないこと」「未来を信じる心の強さが、勇気を生む・不可能を可能にする」と子供達(「映画「ウルトラマンメビウス&ウルトラ兄弟」のセリフ)。

戦災と震災、過去2度の大火に見舞われ、壊滅的被害を被りながらもその都度不死鳥の如く復活してきた「不屈のまち・長田」。そんな長田のまちに住む子供達が、「もっともっと自分たちの町を好きになり、希望と誇りを持つようになる」そんな思いで、大空襲の戦禍/震災の大火/避難所となった神楽小(現長田南小)体育館/菅原市場の定点観測写真/シューズプラザ/スポーツ選手靴形のタイル/区画整理の航空写真 など120点を超す画像を伝えました。

つづく「まち歩き」では、現在工事中の阪神高速道路山手線の現場を新湊川沿いに北上し、長田神社の正門前から村野工業高校横の源平史跡へ、そしてかつてデッドセクションのあった長田交差点から長田区役所の庁舎を通り抜け、御蔵菅原地区では、震災の慰霊モニュメントや焼けたまま姿の残された電柱や楠のある4つの公園をまわり、寅さんの記念碑に目を細めて帰ってきました。



鈴木城さん絵 “デッドセクション<長田>”

(子供達の感想文より抜粋)

「大しんさいの、あの火がほんとうに心にのこりました。」

「公園のしんさいのときのようすをのこした電柱がとても心にのこっています。」

「じしんやせんそうでまちがこわれてもなんどもふっかつするのはすごいと思いました。」

「鉄人28号が出来るのが楽しみです。」



# 空間像をどのように捉えるか

## ■空間像の共有化

さて前稿では、空間像を捉える視点の一例について述べましたが、その視点はさまざまで、まちについて考える人の数だけ空間像があるのかもしれない、と結びました。

同じまちを見ても、住民と来街者と専門家ではイメージする空間像は異なっているでしょうし、それをことさらひとつの姿に集約させる必要はありません。しかし、まちづくりの現場で将来のまちのあり方などを考えていく際には、各自のイメージがバラバラではやはりうまくいかないことが多いですから、まちづくりに携わる人々が持つ空間像をできるだけ共有化していくことは重要です。

新開発地でのニュータウン整備事業などを別にすれば、既成市街地のまちづくりにおいては、建築活動にせよ美緑花運動にせよ、その主体は数多くの市民です。建築や都市の専門家でもなく、常日頃から“空間像”なるものを考えているわけでもない普通の人々が空間像を共有化していくには、そのための仕組みが必要になります。

## ■まちづくり協議会のシステム

市民主体のまちづくりの単位としてもっとも一般的な地域・地区レベルであれば、いわゆる「まちづくり協議会システム」の中で共有化に向けた取り組みを行っていることが多いと思います。

ここで、少しおさらいしておく、まちづくり協議会システムとは、地域住民大多数の参加および賛同にもとづいて結成された「まちづくり協議会」が、地域の諸問題解決のために、まちの将来のあり方を考え、活動を起こし、時には市と「まちづくり協定」を結んで建築行為などを適正に誘導していく、という神戸市の条例にもとづいた仕組みです。

多くの協議会では、地域課題の洗い出しやまち歩きなどの現況調査をふまえてまちの将来のあり方を考え、その成果を地図や想像画を使って「まちづくり構想」という形でまとめ、その実現に向けたルールづくりや啓発活動が展開されているようです。このようにして創られた「まちづくり構想」が共有化すべき空間像と言えるでしょう。

# 空間像研究会の活動 その3

浜田有司（空間像研究会）

## ■共有化への課題

このまちづくり構想を地域で共有化していくために考えていきたい課題があります。

まちづくり構想という空間像は、最初から完全なものを創り出して提示できるものではなく、さまざまな地域活動などを通じて徐々にまとめられていくものであるという点です。そのためには、地域でどういうことが行われているかを人々が知り、その過程を通じて空間像への認識を深めるような仕組みが必要であろうと思われます。

例えば、まちづくり協定を結んでいるいくつかの地域では「協定運用委員会」なるものを作って、建築行為を事前に届け出てもらい、その建物が地域にふさわしいかどうかを考える仕組みをもっています。地域で起きる事を地域の人々が知り、それをまちづくり構想などに照らし合わせて考えてみることで、地域の空間像に対する認識がより深まっていくのではないかと思います。

また、空間像を考え充実させていくきっかけとして、あまり顕わになっていない地域の特徴や資源となりうるものを探し出していくことも大切なことでしょう。

北野町や旧居留地地区のように非常に特色のあるまちであれば、誰にでもわかりやすいかもしれませんが、そのような個性的なまちばかりではありません。しかし、日常的には見落とされがちだけれど地域の歴史・伝統にとって意味のあるものや、他の地域と比べて違っているものは必ずあるのではないのでしょうか。

長く住んでいても自らが住むまちについて知らないことは意外に多く、長く住んでいるからこそかえって気づかないけれど、外部の人間から見ればその地域独自のスタイルと映ることもけっこうあると思います。

わがまち再発見のまち歩きを繰り返しながら地域の資源マップを作ったり、古くからの住民に呼びかけて昔のまちの写真を集めたりしながら“その地域らしさ”を掘り起こしているところもあるようです。

今見えているものだけが地域の空間像というわけではなく、埋もれた資源や失われた歴史を掘り起こすことも空間像に豊かさを加えることになると思います。

次回以降は、各地域のまちづくりに見る空間像をご紹介します。

# まちづくりライブラリーからのお知らせ

まちづくり会館 4 階にある、まちづくりの専門図書館「まちづくりライブラリー」では、都市計画、都市開発、再開発、建築、住宅、景観、阪神・淡路大震災に関する資料、などの図書約 3,500 冊の閲覧・貸出し（一部のものを除く）業務を行っています。そのほか、まちづくりに関するビデオの視聴もできます。お気軽にご利用ください。◇受付…午前 10 時～午後 6 時（水曜日休館）

〈年末年始、（12月28日～1月4日）は会館もライブラリーもお休みです。〉

《新着図書のご案内》

図 書 名	著 者	発 行 元
違反建築ゼロ 住まいの安全・神戸の挑戦	増淵 昌利	学芸出版社
マンションの地震対策	藤本 良明	岩波書店
集合住宅の時間	大月 敏雄	王国社
伝統建築と日本人の知恵	安井 清	草思社
都市の暮らしの民俗学①都市とふるさと	新谷 尚紀・岩本 通弥	吉川弘文館
建築紛争	五十嵐敬喜・小川 明雄	岩波書店
中越地震 復興公論	新潟日報社編	新潟日報社
建築の可能性、山本理顕的想像力	山本 理顕	王国社
太平洋を渡った日本建築	柳田由紀子	NTT出版
街的ということ	江 広毅	講談社
ジャパニクールと江戸文化	奥野 卓司	岩波書店
道州制ハンドブック	松本 英昭	ぎょうせい
都市プランナー田村明の闘い 横浜〈市民の政府〉をめざして	田村 明	学芸出版社
日本人の老後	長山 靖生	新潮社
地方分権と財政調整制度	持田 信樹	東京大学出版会

## まちづくり会館展示のお知らせ

### 1階オープンギャラリーの予定

期 間	内 容 ・ テーマ	主 催 者
12月 1日(土) ～ 27日(木)	第9回神戸まちなみ緑花コンクール 受賞作品パネル展示	神戸市公園緑化協会
1月 5日(金) ～ 30日(火)	震災復興航空写真展	都市計画総局地域支援室 // 市街地整備課

### 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容 ・ テーマ	主 催 者
12月20日(木) ～ 25日(火)	第12回光彩会展《油彩・水彩》	光彩会
1月10日(木) ～ 15日(火)	神戸大学写真部 部展	神戸大学写真部
1月17日(木) ～ 22日(火)	吉岡 充 水彩画展 茅葺の里・酒蔵の町	吉岡 充
1月24日(木) ～ 29日(火)	公募写真展	(財)兵庫労働者福祉基金協会

展示時間：午前 10 時～午後 6 時（水曜日休館） ※初日、最終日は展示時間が変更になる場合があります。



#### 最寄駅

地下鉄海岸線 みなと元町駅西口から 1 分  
 高速 花隈駅東口から 3 分 西元町東口から 5 分  
 JR・阪神 元町駅西口から 8 分

#### こうべまちづくり会館

〒650-0022  
 神戸市中央区元町通 4 丁目 2 番 14 号  
 開館時間：午前 10 時～午後 6 時（水曜日休館）  
 電話：078-361-4523 FAX：078-361-4546  
 ホームページ <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

#### コミュニティ相談センター（まちづくり会館 4F）

自治会の会報等の印刷サービス、運営等の相談  
 電話・FAX：078-361-4565  
 受付：午前 10 時～午後 6 時（水曜日休館）  
 ただし、印刷は 5 時まで